研修報告

総務産業建設常任委員会

5月12日～5月13日

1日目

●研修地

岩手県釜石市

三陸鉄道㈱

●研修目的

震災時の状況と現状

●研修内容

三陸鉄道㈱は、NHKの連続テレビ小説の舞台になった会社で、昭和59年に操業を開始した。岩手県の東海岸線沿いに南北リアス線に分かれて運行している。東日本大震災の地震、津波で大きな被害が発生したが、平成26年4月に全線復旧し現在は地元の交通手段として頑張っている。

今回は、震災学習列車に乗車し、南リアス線を走行しながら線路沿いの震災状況や現在の復興状況などの説明を受けた。

震災当初は、乗務員や乗客に被害が無かったものの津波で駅舎や高架線、線路の計317カ所が被害を受けた。震災後、直ちに運転再開を決意し、震災5日後には北リアス線の陸中野田・久慈間を復旧させ、震災復興支援列車として無料で被災者を乗せ運行を開始した。また、我々が乗車した列車は、クウェートからの義援金によるものであり、世界中から温かい支援があったと感じた。

早期の復興を

研修途中、列車から下車し、議員一同で黙祷を行わせて頂いた。

●所感

列車は、震災後直ちに運行し、救援を行っている。公共機関の大切さを痛感し、復旧のスピード性が課題であると感じた。

2日目

●研修地

岩手県大船渡市

●研修目的

防災対策と復興整備

●研修内容

大船渡市は、人口約3万8，700人、面積323平方キロメートル。三陸海岸南部の代表的な都市の一つであり、典型的なリアス式海岸を有する市でもある。

過去には、昭和8年三陸津波、昭和35年チリ地震津波で甚大な被害を受けた。

震災当日は、3月議会の本会議中であったが、本会議、委員会を開くことが出来なかった。予算などの裁決が必要な議案については、3月議会最終日の3月22日に本会議を開会し、裁決を行った。

議員には被災された方も多くいたが、地元地区で災害対策支部を運営した。その経験から、防災活動として自主防災運動を展開し、相互連絡、炊き出しなどに参加しているとのことである。

復興整備は、JR大船渡線を堺に海側は災害危険地区のため、商業施設を計画し、山側は住居系の土地利用を基本として整備をしている。防災・津波対策も含め沿岸部には住居地区をもうけないことが基本になっている。道路計画は、被災後も生活物資が搬入、搬出出来るよう南北幹線道路に幅員15m道路や公園緑地、河川水路を計画中。防災対策は、大船渡湾口防波堤の総延長736・4mを2016年完成予定で復旧を行っている。高台への住居移転は、370戸が移転予定。情報伝達手段では、コミュニティFM局を開設し、FMラジオを利用した戸別受信機の配布などが行われている。防災訓練の強化において、市民参加のもと、避難訓練を実施し、避難経路や避難場所の確認をし、各自主防災組織で炊き出しや防災訓練なども実施している。

13日の早朝に東日本大震災の余震とみられる宮城県沖を震源地とした最大震度5強の地震に遭遇した。揺れが収まるまで身動きできなかった。そのことから、日頃から訓練し、災害時には自然と体が動くようにしていなければならないと痛感した。

●今後の課題

防災訓練では、もう少し小さな単位の自主防災組織で、実践に近い防災訓練を繰り返し行うことや、有事の時に慌てない取り組みが必要であると感じた。